

全佛通信

十二月号
発行所 全日本仏教会
東京都中央区東地
三ノ一(本願寺内)
電話 592 二九六九
八六六六
振替 東京三三六〇〇
発行人 阿部竜伝
編集者 伊東隆純
印刷所 ルンビニ社
一部 二〇円

全仏人事決まる 新会長に 岸 信 宏 師

理事長に 豊原大潤師 推挙さる



第一控室 地本願寺
において
開催さ
れ、総計
百十三名

会長、副会長、理事長以下理事
など全仏役員改選、並びに規約一
部変更にかかわる全仏評議員会は
十月十八日午前十一時二十分より
午後三時五十四分に亘り、東京築
地本願寺

(内委任六十三名)が出席し、左
の議題について熱心に審議した。
議 題
一、会長及び副会長推戴の件
二、理事及び監事選出の件
三、財団法人全日本仏教会寄附行
為中、一部変更につき同意を
求めることについて

会議はまづ義輪英章理事長が議
長に推挙され議長席につき審議に
入った。まづ議事録署名委員選出
について、議長一任に決したの
で、来馬道断、新谷寛応両師が指
名された。ついで議案の二号から
審議に入り、議長指名により選
考委員七名があげられ、別室にお
いて協議に入った。七委員は、金
剛秀一、伊藤勝淳、鶴飼隆玄、義
輪英章、豊原大潤、上野頼栄、阿
部竜伝の各師。
議事は十二時十二分再会され、
理事と、の監事が選出され夫々承
認決定を見た。
(都合により一月号に全員紹介)
ついで第一号議案の審議に入り
同様に七委員で別室で協議し、会
長以下が次のとおり推戴され承認

を得た。
会 長 岸 信宏師(浄土宗総
本山知恩院門主)
副会長 即真周湛師(天台座主)
同 秋山祐雅師(真言宗智
山派管長)
同 中村 元博士(東京大
学文学部長)
第三号議案の全仏寄附行為中、
一部変更については、第四章中、
第十七条第二項「理事二十名以上
三十名以内」とあるのを「理事四
十名以上五十名以内」に変更す
る。
付 則
この変更寄附行為は、文部大臣
の認可を受けた日から施行する。
と云うものであるが、これは原案
どおり承認可決した。午後一時三
十分暫時休憩。同三時三十分再会
し、同日午後一時三十八分より開
催の理事会の全議案を承認した。
なお理事会は同日午後一時三十
八分より、東京築地本願寺来賓室
にて開催され、二十七理事が出席
し左の議案について熱心に協議し
た。
議 題
一、署名委員選出について
二、常務理事選出について
三、理事長選出について
四、会長及び副会長推戴について
五、財団法人全日本仏教会寄附行
為一部変更につき同意を求め
ることについて(変更項目省
略)
同日午前中の評議員会で理事を
選出した。義輪英章理事長が全員

七名の出席を見たので議事に入
るの指名により議長に指名され議長
席についた。第一号議案は議長の
指名で、宮崎文輝、下川弘義両師
が選出された。ついで第二号議案
及び第三号議案は同時に一括審議
に移ったが、選出委員五名を以て
選出すること、及びこの委員を議
長が指名した。選出委員は、金剛
秀一、上野頼栄、鶴飼隆玄、高辻
恵雄、義輪英章の五師。
なお常務理事の数は選考委員に
一任され暫時休憩して別室におい
て選考委員会を開いた。午後二時
五十八分に再会し、委員会審議の
結果、十四常務理事が決定すると
共に、理事長に豊原大潤師が選出
される旨報告があり承認された。
理事長 豊原大潤師(本願寺派
総長)
第四号議案については会長に岸
信宏師、副会長に即真周湛師、秋
山祐雅師、中村元氏を夫々推戴す
ることに全員了承した。
第五号議案については全員異議
なく了承された。
事務総長に
黒田白純師昇格
事務総長以下各局長、部長、主
事等の人事を決める常務理事会は
十一月二十四日午後一時より京都
西本願寺飛雲閣で行われ、慎重審
議の結果次のとおり決まった。
事務総長 黒田白純師(曹洞宗
前全仏組織局長)
総務局長 稲田稔界師(浄土宗
正覚院住職)

組織局長 伊藤勝淳師(現日蓮
宗総務部長)
国際局長 平林院祐師(本願寺
派東京教務所長)
文化局長 (交渉中)
ベトナム仏教徒歓迎に関する
仏教タイムスの記事は遺憾
十一月二十日付(第六三七号)
仏教タイムス紙の社説欄掲載の、
全仏による越南仏教代表歓迎を中
心とする記事内容について、同月
十二日全仏開催歓迎会に出席して
いた某氏から、同記事は著るしく
事実をまげて報道しており、すべ
てが全仏の空白のこした失態の
如き印象を与えることは、全仏当
局は勿論のこと、全仏を構成して
いる全加盟宗派、団体に対する侮
辱であり、タイムス側の猛省をう
ながしたいとの意見がよせられた
越南仏教代表団の今回の来日は
全たく予告なしのものであったが
全仏としては東京で緊急に歓迎会
をもち、京都では新会長岸陛下を
はじめ各宗々務総長と会談をする
等、誠意をもってことにあたった
のである。
仏教界の進展を願わない仏教徒
はいない筈である。真実のそして
建設的意見を以て、今後の日本
仏教界のマスコミュニケーション
のリーダーたることをタイムス社
各位に強く要望したい。

越南統一仏教教会釈心珠師ら来日 全仏が共同声明を発表

世界仏教徒組織の充実を

戦乱にあげられる南ベトナムから、かねて来日を噂されていた同国統一仏教教会長釈心珠師ら一行七名が、突如十一月十一日午後九時二十分羽田着の日航機で来日した。

全仏では同夜鎌田、福井主事が空港へ出迎え、翌十二日午後一時より、東京銀座「宝来」において歓迎茶話会を開催した。席上釈心珠師長は主要次のように述べた。「今回の訪日は、かねてからアジア・アフリカ協議会日本国内委員会（松本徳明委員長）より招請をうけていたが、クーデターにつぐ本格的戦争のため延々になってきたものであるが、今回、中国（台湾）経由で訪日を実現出来てこんなにうれしい事はない。

訪日の目的は、①クーデター、戦争と相次ぐベトナム仏教徒のために、物心両面に亘る援助を頂いた、日本をはじめとする各国仏教徒に対してお礼の言葉をのべるためのものであり、②カトリックにおけると同様に世界的組織を世界各国仏教徒が強力にもち、相互に仏法弘通、人類福祉のため尽力することをアピールしたいためのものである。そのために日本仏教各宗派の指導者に会見し懇談した

一行は十三日午前九時に宿舍の日比谷日活国際ホテルで読売新聞の記者会見を終えたのち、正午東京駅発の特急ひかり廿一号で一路西下。午後二時四十五分定刻に京

共同声明

今や緊迫せる国際情勢は、人類滅亡につながる危機をはらんでいる。今回ベトナム統一仏教会会長テイック・タム・チャウ師らベトナム仏教徒代表団の来日に際し、それぞれ国民の大部分を仏教徒にもつ、日本とベトナム両国仏教徒は、仏教精神による真の人類福祉を増進するため、まず両国仏教徒が他の国々の仏教徒の協力を得て、固く手を握りそして世界仏教会の組織を確立することに同意し、ここに内外に声明する。

一九六五年十一月十八日
ベトナム統一仏教会
会長 ティック・タム・チャウ

都駅着、駅頭には全仏関西事務局梶原重道部長、八橋秀雄主事その他各宗代表を迎えられ、浄土宗総本山知恩院へ向い、鶴飼隆玄関西事務局事務総長に会見し挨拶をなし、終って全仏会長、知恩院門主

の岸信宏現下に来日の挨拶をなし種々懇談した。なお午後四時より貴賓室にて関西側記者会見をなした。

翌十一月十四日は午前九時三十分東本願寺を訪問し、義輪英章宗務総長、伊原一導師らと会談、終って午前十時四十分西本願寺にて朝枝、峯川、桑月各総務と会見し、次いで午前十一時五十分智積院を訪問、秋山祐雅管長、上野頼栄宗務総長らに迎えられ種々懇談し精進料理に舌づつみをする。

全日本仏教会

会長 岸 信 宏

曹洞宗宗務総長 金 剛 秀 一

真宗大谷派宗務総長 藤 輪 英 章

浄土真宗本願寺派宗務総長 豊 原 大 潤

臨濟宗妙心寺派宗務総長 華 山 恵 光

天台宗宗務総長 杉 谷 義 周

真言宗智山派宗務総長 上 野 野 頼 栄

全日本仏教会関西事務局 事務総長 鶴 飼 隆 玄

アジア・アフリカ協議会 日本国内委員会 委員長 松 本 徳 明

た。なお午後一時二十分には妙心寺へ向い、田中社会部長、台財務部長らと懇談。
午後四時半、一行は京都三条にある東洋亭へ向い、同所で関西事務局主催による歓迎会に出席し盛

んな歓迎をうけ、同時に別記のとおり共同声明公表を全員一致で承し、午後七時頃閉会した。当日



(写真) 全仏をおとつれた城野 仏教代表団一行

は、鶴飼隆玄、奥博良、井上三郎、豊原大潤、義輪英章、鶴飼部長（浄）、峯山部長（妙心）、藤井部長（智）、梶原部長（浄）、八橋秀雄師ほか総員二十名が出席した。

釈心珠師一行は同十五日午前十時十八分京都発の（ひかり十六号）にて帰京したが、駅頭には奥博良、鶴飼隆玄師らをはじめ二十数名の盛んな見送りをうけた。全仏から鎌田主事が、外務省から南東アジア課の松本事務官が同行した。
一行は十五日午後三時より東京芝の東京プリンスホテルでA・A協議会主催の歓迎会に出席し、同日釈心珠、釈護覚師らは椎名外相

訪印団壮途へ

徳田明本団長ら出発

既報の通り全仏派遣訪印日本仏教代表団は、十月二十七日東京築地本願寺で打合せを開き、団長に律宗々務長徳田明本師を選出決定し予定どおり十一月六日午後十二時半羽田発の印度航空機で一路印度へ出発した。全仏では同日午前十一時半より羽田空港ロビーで一行の歓送式をとり行った。なお一行の帰国歓迎会は十一月二十七日午後五時から羽田空港ホテルエアターミナルで挙行される。

と会見し、来日の挨拶をなし懇談した。十六日には鎌倉へ赴き大仏殿参拝をなし、十七日は佐藤首相に会見、十八日午前十一時羽田発の日航機でソウルへ向った。なお全仏では土産品として、仏教旗のついたバッヂ二百個を一行へ贈った。
釈心珠師は一九二一年北ベトナムに生れ、中等教育をうけたのち仏門に入り、北ベトナム仏教会長となった。一九五二年春南ベトナムへ避難、ゴ・ジン・ジエム政権による仏教徒断圧の際には、仏教擁護委員長として反ゴ政権、反カトリックの立役者となった。一九六四年ベトナム統一仏教会会成立と同時に、化導院院長に就任、文化、社会、教育活動を通じて、一般国民に信望が厚く、政府に対してもきわめて強い影響力をもっている。

昭和十三年五月発足の神奈川県仏教会は寺院教会数千八百二十を数え永年に亘り天台宗真盛派横浜市久保山新善光寺住職福永隆賢大僧正会長職に在り、熱誠なる師の全一運動精神が実って今日に至ったと云つても過言でないが、不幸にして福永僧正は七十歳猶隆々たる気魄の中に奇禍に遇い遂に遷化せられ、代つて川崎大師山主高橋隆天大僧正の御就任となり既に三期を経過したが、高橋僧正の御就任は内外共に信望特に高まりその経希予算も百二十万円を超える充実を示すに至った。

神奈川県仏教会の素描

項中、全日仏連携事項、官庁連絡事項、特に宗教法人経理及び源泉課税対応事項等は格段の努力を傾注し、特別の事業として神奈川県寺院教会相互援助組合の結実を計つて今夏遂にその目的達成の域に至り蓄積元利合計金一千二百万円に達し、会員中万一の災害に対して百五十万円を援助可能な態勢となつたことは東京都仏教会連合会のそれと遜色ない処であつて猶加入者は続き一千ヶ寺に及び状態となつたことは全国の仏教団体中の範とすべきものかと考えられる。

三年前から継続拠出して頂いておることを感激の涙を以て肝に銘じて居る次第である。傘下支部四十、理事四十名(支部長)常務理事監事計二十三名中会長一名副会長四名(事務担当・常務理事能登有光)福島県仏教会 誕生す 寺千五百の寺院を組織化して、仏教の和の精神を基調とし全一仏教運動を促進するために、かねてから曹洞宗宗務所長吉岡棟一師等の努力により準備が進められて来たがこの程成案を得て、十一月二十五日郡山市堂前、如宝寺で創立総会を開催、全仏組織局長黒田白純師が出席祝意を表すると共に今後の発展と提携を懇談した。なお参集者は五十数名にのほり知事、市長等の祝辞もあり盛大であつた。

東京都仏教連合会

東京都仏教連合会 四十周年祝賀会開催 関東大震災後の混乱期に東京全寺院を統合しての発足から四十年になるので記念祝賀会を十二月四日二時より、神田一ツ橋、学士会館で開催されることとなつた。なお評論家、高瀬広居氏の記念講演があつた。

沖繩に慰霊碑落成

沖繩に慰霊碑落成 第二次世界大戦の修羅場であつた沖繩戦に参加し空しく散華した将兵の中で、特に戦没者の多い神奈川県では、同島に慰霊碑を建設中であつたがこの程落成を見、十一月二十六日まぶしの丘において盛大な落慶式が行われた。神奈川県仏教会では、県及遺族の要望にに応え、同二十五日羽田発にて、高橋会長以下八名の代表を、沖繩における慰霊碑除幕落慶法要に派遣した。なお、一行はその法要出席のち、沖繩仏教連合会(善国乗宣会長)と交歓会を持った。

三六会が吉展地藏像寄金

第七回世界仏教徒会議出席の日本代表団員で組織している、「三六会」(会長宮崎文輝師)では、「吉展地藏像建立」の資金を団員から募集していたが、十一月十九日午後二時に同会事務局長黒田白純師が東京南千住の円通寺に乙部住職をたづね総計二万壹千円也を同住職に手渡した。建設資金は各方面からぞくぞく集められ、近々着工すると云う。

献金者感謝録(第四回分)

- 木下文堂 福井県大飯郡高浜町和田一七の七
- 熊野竜夫 千葉市吾妻町二の九三
- 河原晨晴 東京都大田区馬込町西三の二四五五
- 宮崎文輝 港区芝二の五の三曹洞宗々務所
- 加藤竜雲 三重県一志郡久居町・見性寺
- 柳楽真純 上田市常磐城一八三六
- 阿部竜文 東京都世田谷区玉川等々力町二の二六一
- 植村重信 静岡県小笠原郡菊川町牛淵一六四
- 黒田白純 東京都品川区小山一の四二四・桐ヶ谷寺
- 鎌田良昭 中央区築地三の(本願寺内)全仏内福井清俊
- 近畿日本ツー 東京都千代田区神田小川町二の二
- 航空営業所 金沢ビル内
- タルマバーラ記念事業
- 126、金壹拾五万円也 真宗大谷派 宗務所殿
- 127、金五千元也 三浦称随殿
- 128、金壹万五千元也 小林喜久一殿
- 139、五千元也 徳田明本殿
- 130、同 大橋俊定殿
- 131、同 佐保山堯海殿
- 132、同 林 岱雲殿
- 133、同 清水公照殿
- 134、同 佐藤偉麟殿

なお全仏より印度大菩提会本部へ、テープレコーダー一器及ディナーセット一式を夫々贈つたが、これらは訪印団が携行しました。

サイゴンにおける世界仏青連盟準備会

十月二十五日、一行五名サイゴン空港に着く。こわごわと飛行場に降り立ったのだが、出迎えに来ていたベトナム統一仏教会の青年男女達にドッと囲まれ、不安も即座にけしとんでしまった。



サイゴンの街を走る。気候はさすがにムシ暑く、体がジワッと汗ばむ。白い、アオザイというベトナム服をなびかせた娘さんの自

転車が窓外を流れる。輪タクがすれ違

う。ズングリとした黒ぬりのタクシーを追越す。
ベトナム人は、少くともサイゴン市民は自分達の国が戦っているという意識が薄い。我々ベトナム人の土地でアメリカと中共が勝手に戦争をしているのだ、と云う。サイゴンの表情には、戦争の緊迫感は見受けられなかった。
統一仏教会の役員僧が強い口調で言われた。「私共には大きな三つの敵がある。一つは共産主義で、一つは米帝国主義、一つはカソリックだ」と。そして「日本はどうですか」と聞くので、「日本ではもうひとつ加える。それは創価学会だ」と半ばウィットのかついで言ったところ、彼等は真剣な

世界仏青連盟の理事国は、日本、ベトナム、タイ、マラヤ、印度の五ヶ国であるが、今理事会には日本、タイ、ベトナムが出席、マラヤは止むを得ぬ理由で欠席した。開会式の後、ピエンホワオの統一仏教会本部で、精進料理による晩餐会が催された。



顔で、「創価学会はサイゴンでも信者が出来つつある。どんな組織か教えてくれ」と頼まれ、現況を話したら「ブーム」とうなって、考え込んでしまわれた。
開会式は、仏教青年会館で行なわれた。会場の両側歩道に歓迎のボーイスカウト、ガールスカウト達がずらりと並び、リーダーの笛を合図に一斉に挙手の敬礼をしてくれたのには恐縮した。

第一回世界仏教青年連盟大会は一九六六年五月二十八日〜六月四日、サイゴン市及びフエ、ダラトで開催と決定。
次いで内容の討議に入った。日本側の提案事項は五項目であったが、③項はスローガンの件で「友好と団結と平和」。平和の字句に就てタイから異議が出、両者主張をゆずらず、結核、ベトナムの折衷案で、印度、マラヤに意見を問

い、多数決で採決することになった。次に⑤項の「主権国ベトナムは参加各国の代表者の完全なる安全保証を要請する」には、安全は保証するが、国情、完全の字句は除いて欲しいとの返答に、完全の保証が出来なくて、何で国際会議の主権者と一歩もゆずらず、遂には日本側のダンマリ戦術に、鳩首協議された首脳陣は完全なる安全保証を約束して下さった。後はベトナムの議案に従って特に難点もなく、会議はすすめられた。
大会に際する指導講師は、セイロンのマララセーケラー博士他、各国著名人が参加される由。日本

からも必ず一名、講師を派遣せられたいと要請があった。
サイゴン大会には、全日仏青として、代表団を組織し、合せて東南アジア各国を歴訪、親善交流を図るが、多数参加せられたい。
(サイゴン理事会出席者)
西村輝成(曹洞宗) 黒田竜雄(東本願寺) 石上智康(西本願寺) 朝比奈秀行(全日仏青事務局長) 杉谷和男(天台宗) 以上五名。
(筆者は全日本仏教青年会常務理事西村輝成師)

釈尊成道慶讃
慈善チャリティパーティ開催
四月八日の釈尊降誕を期して誕生したブッデイスト・クラブ(代表猪俣与一氏)では釈尊成道会を記念して、左により慈善チャリティ・ダンスパーティを行う。この目的は身体障害者、盲人福祉、児童福祉、養老院等の恵まれない多くの人々に浄財をおくりはげますためのもので、全仏でもこの趣旨に賛同してこれを後援する。

- 一、日時 十二月十三日(月) 午後六時より
- 一、場所 赤坂プリンスホテル
- 一、申込 東京都江東区深川 平野町一の一 井上政徳氏あて (電話) 641-0573
- 一、会費 千七百円(軽食付)
- 一、出演 渡辺弘とスターダスターズ・原孝太郎と東京六重奏団
- 一、舞 今井 栄子 花柳 夫佐輔 東芝ヤングシスターズ(東芝専属)
- 一、唄 一、唄

申込み希望者は至急井上氏あてに電話願いたい。
主催 ブッデイスト・クラブ 後援 全日本仏教会ほか 日本留学を終え

釈満覚師帰国
長らく南ベトナムより留学生として来日していた釈満覚師は、東洋大学院修士課程を終了したことで十一月二十三日空路帰国することになった。釈満覚師は帰国後は、古都フエにある国立フエ大学東洋哲学教授として活躍する。

昭和41年 全仏手帳

Buddhist Diary 刊行

(内容一部)

- ☑ 各宗派年間行事
- ☑ 年忌早見表
- ☑ 月間予定
- ☑ 週間予定
- ☑ 各宗派所在地・電話番号
- ☑ 各都道府県仏教会
- ☑ 各仏教団体

申込先

東京都中央区築地 3の1 (本願寺内) 全日本仏教会総務局

定価 1部 180円
送料別(実費)
発行 本年11月下旬